



Ensemble 14

Das 28. Konzert

2019年1月27日
浜離宮朝日ホール

ごあいさつ

ようこそお越し下さいました。

今回のソリストオーディションにはヴァイオリニストの川原千真女史をお迎えして選考して頂きました。アンサンブルが主目的で集まったメンバーですので基本的には各人ふたつ以上のソロ曲を受け持つことは極力避けて頂きます。今日まで本当に多くのバッハを愛する一流器楽奏者、声楽家を公演毎、交互にゲスト審査員にお迎えして参りましたが、その都度選ばれる人材が違うと言うことが非常に興味深いところです。ゲスト審査員の拘りが見えることは私にとっては大いなる学びと成りました。

アマチュアの声楽家達であるメンバー各人は真摯に楽曲に対峙し、オーディションの日に備えます。それは合否に関わらずカンタータの合唱曲以外に学びを広げることで教会カンタータ全体の教義を理解し、それを深めることに繋がって行きます。自分のパート以外の楽曲にもエントリーする者も少なくなく、そう言う意味ではこのバッハオタク集団は健全なる成長を続けて参りました。

お陰様でこの集団のメンバー募集は今のところ行っておりませんが、各パートに欠員が生じれば即募集が出ますのでどうぞ皆様今後ともお聴き頂くにもご参加頂くにもご興味をお持ち頂ければと存じます。で・・・その演奏レベルが驚くほど高いかと言えば・・・“音楽の父”の壁は常に我々を時に優しく迎え入れ至福の世界へと導き、またある時は底なし沼へと引き摺り込むのです。本日が前者と成ることを祈り、信じてタクトを思いのままに振り下ろします。



Ensemble14 指揮者

辻 秀幸



今日は、Ensemble14（アンサンブル・フィアツェン）の演奏会に足をお運びいただき、誠にありがとうございます。団員一同、心より御礼申し上げます。

Ensemble14 は、1998 年 8 月に、バッハの『マタイ受難曲』の第 2 コーラスを歌おうとの呼びかけに応じて誕生した合唱団です。以来教会カンタータを中心に、一貫してバッハの声楽作品を歌い続けてきました。

本日演奏するカンタータ 4 曲のうち、140 番は 2001 年の第 4 回演奏会で演奏して以来の再演となります。バッハの数多いカンタータの中でも有名な曲のひとつで、冒頭合唱が、10 年ほど前に某携帯電話会社の CM で使われていたので、聞き覚えのある方も多いかもかもしれません。

今回初めて演奏する 148 番、111 番、77 番も、それぞれに魅力的で充実した内容の曲揃いです。これまで、ずいぶん多くのカンタータを採り上げてきましたが、どの曲にも違った良さがあり、バッハの音楽の多彩さを毎回感じさせられます。そしてこのプログラムの挨拶文を考える時、これらの素晴らしい曲をたくさん歌ってこられたことを改めて振り返り、しみじみ感謝の気持ちが込み上げるとともに、頑張らなければ！という気持ちにもなるのです。

聴くと素晴らしいのに、歌うのはとても難しいバッハに苦戦しつつも、私達なりに懸命に、練習に取り組んできたつもりです。平成最後となる今回の演奏会も、合唱・独唱とも、精一杯演奏させていただきます。終演までごゆっくりお聴き頂ければ幸いです。

最後になりましたが、笑いに溢れた練習のうちに、真摯で生き活きとした音楽作りへと導いてくださいます指揮者の辻秀幸先生、バッハ演奏のスペシャリスト揃いで、素晴らしい音楽で合唱を支えてくださるミレニウム・バッハ・アンサンブルの皆様、練習で献身的にサポートして下さる練習ピアニストの田城章子先生、そして今回のソリストオーディションで審査員を務めてくださいましたヴァイオリン奏者の川原千真先生に、深く感謝申し上げます。

Ensemble14 代表
室橋 明美

Programm

作曲 ヨハン・ゼバスティアン・バッハ

Johann Sebastian Bach (1685-1750)

カンタータ 第 148 番「主に御名の栄光を捧げなさい」

Kantate "Bringet dem Herrn Ehre seines Namens", BWV 148

(2) 室橋 義明 Tenor (3) 橋元 正美 Alt (4) 柿原 紀子 Alt (5) 島津 欣矢 Tenor

カンタータ 第 111 番「私の神が望まれることは、常に行われます」

Kantate "Was mein Gott will, das g'scheh allzeit", BWV 111

(2) 武内 崇史 Bass (3) 小田 奈穂子 Alt (4) 中神 康一 Alt、長澤 哲 Tenor (5) 河野 優子 Sopran

— — — — — Pause / 休憩 — — — — —

カンタータ 第 77 番「あなたの主なる神を愛しなさい」

Kantate "Du sollt Gott, deinen Herren, lieben", BWV 77

(2) 大内 良太郎 Bass (3) 子井野 真貴子 Sopran (4) 隈 健一 Tenor (5) 寺崎 淳子 Alt

カンタータ 第 140 番「目覚めよ、と私たちを呼ぶ声が」

Kantate "Wachet auf, ruft uns die Stimme", BWV 140

(2) 中西 隆紀 Tenor (3) 室橋 明美 Sopran、小林 尚弘 Bass

(5) 菅野 松佐登 Bsss (6) 佐藤 かおり Sopran、木下 剛 Bass

BWV: Bach-Werke-Verzeichnis (バッハ作品総目録番号)

■指揮 辻 秀幸

Ensemble14 指揮者。幼少よりヴァイオリン・ピアノ・フルート・金管楽器・作曲を学び、東京藝術大学声楽科及び同大学院独唱科修了。声楽を渡邊高之助、宗教音楽を小林道夫、佐々木正利の各氏に師事。

1985年イタリアのミラノを中心にヨーロッパへ音楽遊学。L.グウアリーニ女史、F.タリアヴィーニ、H.リリングらの各氏に師事。1986年イタリアのノバラ市国際声楽コンクール入賞。同年ドイツのハイデルベルク、1988・89年にはウィーン楽友協会大ホール、2000年にはカイザースラウテルン、パッサウ他、数都市でベートーヴェン“第9”のソリストを務め、ヨーロッパ各地でコンサートに出演し好評を博す。国内でもドイツ・イタリア・日本歌曲を中心に各地でユニークなりサイタル活動を展開し、オペラでは古典から現代に至るまで、数多くの作品に出演し、その優れた演技力と歌唱は、新聞・音楽誌上でも度々絶賛された。宗教音楽の演奏家としての活躍は特に目覚ましく、バッハ・ヘンデル・ハイドンの宗教曲・オラトリオの演奏では、ソリスト・エヴァンゲリスト・指揮者として、その活動は常に注目を集めている。

現在指導に当たっているアマチュア合唱団は16団体を数える。洗足学園音楽大学、東京芸術大学各講師、日本合唱指揮者協会副理事長、東京都合唱連盟副理事長。共著に「わかって歌おうーレクイエム発音講座」、「フィガロの結婚発音講座」等がある。

※ 辻 秀幸 公式サイト <http://www.davide-hide.com/>

■管弦楽 Millennium Bach Ensemble (ミレニウム・バッハ・アンサンブル)

2000年4月に田園調布教会で行われた「マタイ受難曲」演奏会において辻秀幸先生の呼びかけにより結成される。各方面の第一線で活躍中の演奏家からなる器楽団体。第2回演奏会以降、Ensemble14との共演が続いている。

ヴァイオリンI：大西 律子*[†]、門倉 佑希子
([†]兼 ヴィオリーノ・ピッコロ)

ヴァイオリンII：上ノ山 美香、大光 嘉理人

ヴィオラ：高山 愛、西村 知佳子

チェロ：高群 輝夫

コントラバス：永田 由貴

ファゴット：井上 直哉

オルガン：能登 伊津子

トランペット：平井 志郎

オーボエI：岡 北斗

オーボエII：多田 敦美

オーボエIII / オーボエ・ダ・カッチャ：崎本 絵里奈

* コンサートマスター

■声楽 Ensemble14 (アンサンブル・フィアツェン)

辻秀幸先生のもとでJ.S.バッハのカンタータ等を歌うアマチュア合唱団。1998年8月結成。ソリストは団内オーディションにて選出し、プロのオーケストラ(主に現代楽器)と共演する演奏スタイルで、東京周辺にて活動している。

※ Ensemble 14 公式サイト <http://www.ensemble14.org> E-Mail info@ensemble14.org

楽曲解説・歌詞対訳

楽曲解説：中西 隆紀 歌詞対訳：室橋 明美

カンタータ 第 148 番「主に御名の栄光を捧げなさい」

Kantate "Bringet dem Herrn Ehre seines Namens", BWV 148

三位一体の祝日後第 17 日曜日のためのカンタータ

歌詞：Picander 作？

このカンタータは三位一体節後第 17 日曜日のために作曲され、初演はライプチヒに於いて 1723 年 9 月 19 日とされるが、歌詞や楽器編成など伝承に不明な点があり、初演の日についても必ずしも明確になっていない。カンタータの歌詞に、マタイ受難曲の台本を書いたピカンダーが 1725 年に出版した詩集に似た部分があるため、1725 年 9 月 23 日の可能性もあるとされる。当日の福音書章句はルカ伝 14 章 1～11 節、安息日に於ける水腫患者の癒しと婚宴での座席選びのたとえ話である。安息日に癒しを行うことの是非がテーマだが、このカンタータでは、むしろ安息日を積極的に祝い、神を賛美するように説いている。

カンタータの冒頭は、まるで秋晴れの空を見るような清々しい曲の始まりだ。トランペットの高らかな音色が華を添えている。やがてそのメロディーで、主（キリスト）の聖名の栄光を讃える合唱が入ってくる。途中、女声 2 部の美しい掛け合いを挟んで合唱と器楽が一体となった賛歌が歌われる。やがて、テノールパートが「betet（祈りなさい）」と歌いだし、ここからフーガとなる。アルト、ソプラノと順次フーガに加わるが、4 番目に入ってくるのは予想に反して器楽のトランペットで、最後にバスパートが加わる。5 声のフーガとして作られているのだ。その後器楽の間奏は短調となり、それに呼応して合唱も最初短調で歌いですが、すぐに長調に転調して華やかな終結部に向かう。聴いていて心躍る音楽であり、歌っても楽しい曲である。

続いて始まるテノールのアリアでは、まずヴァイオリンの前奏に魅了される。バッハのアリアは、ソロの歌うメロディー

に劣らず伴奏楽器の奏でるメロディーが魅力的なものが多々あるが、このアリアでも聴く者は前奏部分からグイグイ惹き付けられる。「私は急ぎます、命の教えを聴くために」と歌い出すテノールのはやる心は、ヴァイオリンにより前奏部からよく表現されており、前奏部、間奏部の華麗さもさることながら、歌と絡む部分も見事に作られている。

有名な旧約聖書の詩編 42 編 1 節から取られた「鹿が清い水を求めて鳴くように・・・」と歌い出す抒情的なアルトのレチタティーヴォに続いて、2つのオーボエ・ダモーレとオーボエ・ダ・カッチャの伴奏によるアルトのダ・カーポアリアが来る。オーボエ 3 本で伴奏されるアリアは珍しく、全体的にふくよかな音の厚みを感じられる。「至高なる方よ、私の中に下りて来てください！」と歌われるが、頻りに現れるオーボエ・ダモーレの奏でる高いところから下降するメロディーがチャーミングだ。至高なる方が降りて来ることを表しているのだろうか。中間部の終わり、「安らぎの寝床となる」の部分では、ソロも器楽も一緒にまどろんでいくような音楽になっている。

短い印象的なテノールのレチタティーヴォに続いて、終曲コラールが歌われる。前述したように、伝えられる写譜の歌詞の記入に不備があり、歌詞が確定できていない。今回の演奏では、J. ヘールマンのコラール「我いずこにか逃れゆくべき」の第 11 節によるが、作者不詳のコラール「我が愛しの神に」の第 6 節「Amen zu aller Stund/Sprech ich aus Herzensgrund～（いつもアーメンと、私は心の底から唱えます～）」で歌われることもあるようだ。

1. Chor

Bringet dem Herrn Ehre seines Namens,
betet an den Herrn im heiligen Schmuck!

2. Arie (Tenor)

Ich eile, die Lehren
des Lebens zu hören,
und suche mit Freuden das heilige Haus.

Wie rufen so schöne
das frohe Getöne
zum Lobe des Höchsten die Seligen aus!

1. 合唱

主に、その御名の栄光を捧げなさい、
祈りなさい、聖なる衣装を身にまとう主に！

（『詩編』29 編 2 節、96 編 8-9 節）

2. アリア（テノール）

私は急ぎます、
命の教えを聴くために、
そして喜びと共に、聖なる家を探します。

なんと美しく、
喜ばしい響きで
祝福された者たちは、主への賛美を唱えることでしょう！

3. Rezitativ (Alt)

So, wie der Hirsch nach frischem Wasser schreit,
so schrei ich, Gott, zu dir.

Denn alle meine Ruh
ist niemand außer du.

Wie heilig und wie teuer
ist, Höchster, deine Sabbatsfeier!

Da preis ich deine Macht
in der Gemeinde der Gerechten.

O! wenn die Kinder dieser Nacht
die Lieblichkeit bedächten!

Denn Gott wohnt selbst in mir.

4. Arie (Alt)

Mund und Herze steht dir offen,
Höchster, senke dich hinein!

Ich in dich, und du in mich;
Glaube, Liebe, Dulden, Hoffen
soll mein Ruhebetten sein.

5. Rezitativ (Tenor)

Bleib auch, mein Gott, in mir
und gib mir deinen Geist
der mich nach deinem Wort regiere,
dass ich so einen Wandel führe,
der dir gefällig heißt,
damit ich nach der Zeit
in deiner Herrlichkeit,
mein lieber Gott, mit dir
den großen Sabbat möge halten.

6. Choral

*Führ auch mein Herz und Sinn
Durch deinen Geist dahin,
Dass ich mög alles meiden,
Was mich und dich kann scheiden,
Und ich an deinem Leibe
Ein Gliedmaß ewig bleibe.*

3. レチタティーヴォ (アルト)

鹿が清い水を求めて鳴くように、
私も、神よ、あなたに向けて叫びます。
私の全ての安らぎは、
あなたをおいて、他にはないのですから。
なんと神聖で、貴いものなのでしょう、
至高なる方よ、あなたの安息日の祝いは！
その日、私はあなたの力を讃えます、
心正しき人々が集まる中で。
ああ！この闇の世に生きる子らが
(神の) 慈愛をよくよく考えみたならば！
神は自ら私の中に住んでくださっているのですから。

4. アリア (アルト)

口と心とは、あなたに向けて開かれています。
至高なる方よ、私の中に下りて来てください！
私はあなたの中に、そしてあなたは私の中に。
信仰、愛、忍耐、希望、
それらが私の安らぎの寝床となるのです。

5. レチタティーヴォ (テノール)

また、とどまってください、私の神よ、私の中に。
そして私にあなたの御霊を与え、
私に、あなたの御言葉どおりの行いをさせてください。
私が、あなたの望まれるような
人生を歩んで行けるように。
そして私が、この世での時を過ぎた後に
あなたの栄光の中で、
愛する神よ、あなたと共に
大いなる安息の日を過ごせますように！

6. コラール

私の心と思いをも、
あなたの御霊によってここまで導いてください。
私が、私とあなたを隔てる
全てのものを避けられますように。
そして私があなたの身体の
一肢 (ひとえだ) として永遠にいられますように。

(Johann Heermann 作のコラール « Wo soll ich fliehen hin » 第 11 節)

※歌詞および対訳中の太字で斜体の部分は、バッハが作曲した当時、既に教会で一般的に歌われていたコラール (讃美歌) の歌詞が用いられている箇所です。

カンタータ 第 111 番 「私の神が望まれることは、常に行われます」

Kantate "Was mein Gott will, das g'scheh allzeit", BWV 111

公現の祝日後第 3 日曜日のためのカンタータ

歌詞：作者不詳

Albrecht Markgraf von Brandenburg-Ansbach, Herzog in Preußen 作のコーラル
 « Was mein Gott will, das g'scheh allzeit »による

このカンタータは 1725 年 1 月 21 日、公現節後第 3 日曜日のために作曲された。バッハは前年 6 月の三位一体節後第 1 日曜日から、いわゆるコーラル・カンタータを作曲しでしたが、それは 1725 年 3 月のカンタータ 1 番まで続き、その数は 40 曲にのぼった。したがって、この 111 番はその期間の終わりの方に作曲されたことになる。それまでに 30 曲を超えるコーラル・カンタータが演奏されており、コーラル・カンタータの作曲にも慣れてきたころの作品と言える。当日の福音書章句はマタイ伝 8 章 1～13 節で、信仰者に起こるイエスの癒しの奇跡である。アルブレヒト・フォン・ブランデンブルク（プロイセン公）作の同名コーラルの第 1 節と第 4 節（最終節）を、冒頭合唱と終曲コーラルに用い、その間の第 2 曲～第 5 曲については、コーラルの第 2 節、第 3 節をベースにするという、典型的なコーラル・カンタータの特徴を有している。

冒頭合唱は躍動的な器楽合奏で始まる。この前奏部からは何か確信に満ちたものが感じられ、また急かされるような感じも受ける。それは合唱で歌われる「神への絶対的信頼」を下支えしているようでもある。ソプラノパートにより歌われるコーラル旋律は、マタイ受難曲などでも知られるものだ。合唱部の構造は比較的単純で、コーラルの第 1 行、第 2 行に当たる部分は同じメロディーの繰り返し、中間部（第 3 行）で少し複雑になる変化を見せるが、第 4 行で

また同じメロディーが繰り返される形となっている。

第 2 曲のバスのアリアは通奏低音だけの伴奏で歌われる。A-B-A' の自由なダ・カーポ形式で、中間部では「widerstreben（逆らう）」という言葉に複雑なメリスマが付けられている。A と A' のそれぞれ最後のところにはコーラル旋律が織り込まれている。

アルトのセッコ・レチタティーヴォに続いて、このカンタータの中核ともいえるアルトとテノールの二重唱が来る。A-B-A の完全ダ・カーポ形式の長大なアリアだが、冒頭合唱の確信に満ちた雰囲気を引き継ぎ、それに付点のリズムを加え、気品ある舞曲風の充実した響きの楽曲となっている。途中「墓へ連れて行く」とか「死の苦味」という歌詞のところではやや暗くなるものの、全体的には付点のリズムで刻まれた「勇敢な足どり」で歌われていく。

第 5 曲のソプラノのレチタティーヴォには 2 つのオーボエが伴奏として付く。このレチタティーヴォのテーマは「死」であるが、最後にはアリオーゾとなり「至福の、願わしき最期よ!」と歌われる。ここでオーボエの伴奏が生きる。終曲は単純な四声のコーラルで、冒頭合唱のコーラル旋律と同じメロディーが歌われる。マタイ受難曲の第 25 曲、イエスの捕縛の直前に置かれたコーラル（神の御旨がつねに成就しますように。）を思い出す人もいるだろう。

1. Chor

*Was mein Gott will, das g'scheh allzeit,
 Sein Will, der ist der beste;
 Zu helfen den'n er ist bereit,
 Die an ihn gläuben feste.
 Er hilft aus Not, der fromme Gott,
 Und züchtiget mit Maßen:
 Wer Gott vertraut, fest auf ihn baut,
 Den will er nicht verlassen.*

1. 合唱

私の神が望まれることは、常に行われます。
 神の御意志、それは最も良いものなのです。
 神は進んで助けてくださいます
 神を固く信じる人々のことを。
 苦しみから救ってくださる、正しき神は、
 また相応に懲らしめもするのです。
 神を信頼し、神を確かな礎とする人、
 その人を神は見捨ててことはないのです。

(第 1 節)

2. Arie (Bass)

Entsetze dich, mein Herze, nicht,
Gott ist dein Trost und Zuversicht
 und deiner Seelen Leben.

Ja, was sein weiser Rat bedacht,
 dem kann die Welt und Menschenmacht
 unmöglich widerstreben.

3. Rezitativ (Alt)

O Törichter! der sich von Gott entzieht
 und wie ein Jonas dort
 vor Gottes Angesichte flieht:
 auch unser Denken ist ihm offenbar,
 und unsers Hauptes Haar
 hat er gezählet.
 Wohl dem, der diesen Schutz erwählet
 im gläubigen Vertrauen,
 auf dessen Schluss und Wort
 mit Hoffnung und Geduld zu schauen.

4. Arie (Duett : Alt und Tenor)

So geh ich mit beherzten Schritten,
 auch wenn mich Gott zum Grabe führt.
 Gott hat die Tage aufgeschrieben,
 so wird, wenn seine Hand mich rührt,
 des Todes Bitterkeit vertrieben.

5. Rezitativ (Sopran)

Drum, wenn der Tod zuletzt den Geist
 noch mit Gewalt aus seinem Körper reißt,
 so nimm ihn, Gott, in treue Vaterhände!
 Wenn Teufel, Tod und Sünde mich bekriegt
 und meine Sterbekissen
 ein Kampfplatz werden müssen,
 so hilf, damit in dir mein Glaube siegt!
 O seliges, gewünschtes Ende!

6. Choral

*Noch eins, Herr, will ich bitten dich,
 Du wirst mir's nicht versagen:
 Wenn mich der böse Geist anficht,
 Lass mich doch nicht verzagen.
 Hilf, steur und wehr, ach Gott, mein Herr,
 Zu Ehren deinem Namen.
 Wer das begehrt, dem wird's gewährt;
 Drauf sprech ich fröhlich: Amen.*

2. アリア (バス)

恐れおののくことはありません、私の心よ、
 神はあなたの慰めであり、確かなよりどころ、
 そしてあなたの魂の命なのです。
 そうです、神の賢明な御心が考慮し定めたこと、
 それにこの世も人々の力も
 逆らうことは不可能なのです。

(第2節)

3. レチタティーヴォ (アルト)

ああ、愚かな者よ! 神から離れ、
 ヨナのごとく
 神の御(顔の)前から逃げ出すとは。
 私たちの考えは神にはわかりきったことであり、
 私たちの髪の毛の本数さえも
 神はご存知なのです。
 幸いです、神の御加護を
 信頼に満ちて選び取り、
 神の最後の裁きと御言葉に
 希望と忍耐をもって目を向ける人は。

4. アリア (アルトとテノールの二重唱)

それゆえ私は勇敢な足どりで進みます
 神が私を墓へと連れて行く時であっても。
 神は私の日々を書き記してくださいました。
 ですから、神の御手が私に触れる時、
 死の苦味は取り除かれるでしょう。

5. レチタティーヴォ (ソプラノ)

ですから、死がついにこの霊を
 なおも力づくでその身体から引き離す時、
 どうか霊をお受け取りください、神よ、誠なる父の御手に!
 悪魔と死と罪が私に戦いを挑み、
 私の死の床が
 戦いの場とならざるをえない時、
 どうか助けてください、あなたの内で私の信仰が勝利するために!
 ああ至福の、願わしき最期よ!

6. コラール

もうひとつ、主よ、私はあなたにお願いしたいのです。
 あなたはその願いを拒むことはないでしょう。
 邪悪な霊が私を惑わせる時、
 私をひるませないでください。
 助けてください、導きお護りください、ああ神よ、私の主よ、
 あなたの御名の栄光のために。
 それを切に求める人は、与えられるでしょう。
 だからこそ私は喜ばしく言うのです。アーメン、と。

(第4節)

カンタータ 第 77 番 「あなたの主なる神を愛しなさい」

Kantate "Du sollt Gott, deinen Herren, lieben", BWV 77

三位一体の祝日後第 13 日曜日のためのカンタータ

歌詞：作者不詳

このカンタータはバッハがライプチヒのカントル（教会音楽家）になってからまだ日の浅い 1723 年 8 月 22 日に初演された。カンタータ 148 番が 1723 年の作曲だとすると、その 4 週間前に当たる。この日は三位一体節後第 13 日曜日で、当日の福音書章句はルカ伝 10 章 23 ～ 37 節、慈悲深いサマリア人のたとえである。従って、このカンタータのテーマは、神への愛、隣人に対する愛である。カンタータ 148 番と同じく、トランペットが活躍するカンタータだが、その役割はだいぶ異なる。演奏時間は比較的短く、楽器編成も小さい、どちらかというとな簡素な作品だが、冒頭合唱に限って言えば、かなり凝った造りとなっている。

冒頭合唱は弦楽器により静かに湧き上がるように始まる。各器楽が珍しく同音で始まるのもそういう印象を強くする。そして合唱が入ってくる直前、それを先導するかのように、トランペットがコラール「これは神聖なる十戒である」のメロディーを奏で始める。十戒のコラール・メロディーを土台に愛をテーマとする合唱が歌われるのは、聖書の中で神の愛、隣人への愛が律法全体の土台であるとされていることを象徴している。そして合唱が歌うモチーフもこのコラールのメロディーに基づいている。合唱部分は 8 つの部分に分かれるが、7 番目までは「あなたの主なる神を愛しなさい～」という歌詞を、各パートがモチーフを様々に変化させながら、2 つ目以降はひたすら切れ目なく歌い続ける。最後の部分は「そして、あなたの隣人を自分自身のことのように愛しなさい」という歌詞となる。この合唱に対して、トランペットは十戒のコラールの部分部分を演奏するが、その出現箇所は都合 10 か所であり、ここでもバッハの数字への拘りがみられて面白い。トランペットは最後の 10 か所目であらためて十戒のコラールを通して奏する。

通奏低音だけによる短いバスのレチタティーヴォに続い

て、2 本のオーボエの伴奏によるソプラノのアリアが始まる。オーボエの 3 度のハーモニーはしっとりとして実に美しい。バッハのオーボエ伴奏の美しさの一つの典型であり、こういった曲からバッハの音楽に嵌っていく人も多いのではないか。ソプラノの歌うメロディーもオブリガート伴奏に劣らず美しい。後半部で「(愛に) 燃え立たせて (entbrennen)」に長いメリスマが付き、「永遠に愛する」の「ewig (永遠に)」を長く伸ばすのが印象的である。

ソプラノのアリアの雰囲気を引きずって、4 曲目のテノールのレチタティーヴォが始まる。弦楽の伴奏に乗せて歌われるアリオゾ風のレチタティーヴォは抒情的で美しい。そして 5 曲目のアルトのアリアでは、伴奏楽器としてのトランペットの魅力が遺憾なく発揮されている。148 番の冒頭合唱のような華やかさも良いが、この切なく透明な、夜空の満点の星が目に見えかぶようなトランペットの響きも捨てがたいものがある。

終曲は「ああ神よ、天からご覧ください」のメロディーによるコラール。ただし、この曲は歌詞が伝えられていない。私たちが歌う D. デーニケ作の歌詞以外にも、メンデルスゾーンの子であり、「マタイ受難曲」の蘇演を支援した K.F. ツェルターが提案した、同じくデーニケ作の「Du stellst, mein Jesu, selber dich zum Vorbild wahrer Liebe (主イエスよ、あなたはあなた自身を真実の愛の姿に置く)」という歌詞で歌われることもあるようだ。私たちの楽譜にも 2 つの歌詞が併記されている。そんなことより、面白いのはこの曲の一風変わった終わり方だ。聴いていて、中途半端でまだ続きがありそうな感じを受けなかっただろうか。なんとなくステージの最後に持って来がたい感じがするので、このカンタータは後半ステージの最初に持つてくることとなった。

1. Chor

Du sollt Gott, deinen Herren, lieben
von ganzem Herzen, von ganzer Seele,
von allen Kräften und von ganzem Gemüte;
und deinen Nächsten als dich selbst.

1. 合唱

あなたの主なる神を愛しなさい
心を尽くし、魂を尽くし、
力の限りを尽くし、思いを尽くして。
そして、あなたの隣人を自分自身のことのように愛しなさい。

(『ルカによる福音書』10 章 27 節)

2. Rezitativ (Bass)

So muss es sein!

Gott will das Herz vor sich alleine haben!

Man muss den Herrn von ganzer Seelen

zu seiner Lust erwählen

und sich nicht mehr erfreuen,

als wenn er das Gemüte

durch seinen Geist entzündt,

weil wir nur seiner Huld und Güte

alsdenn erst recht versichert sind.

3. Arie (Sopran)

Mein Gott, ich liebe dich von Herzen,

mein ganzes Leben hängt dir an.

Lass mich doch dein Gebot erkennen,

und in Liebe so entbrennen,

dass ich dich ewig lieben kann.

4. Rezitativ (Tenor)

Gib mir dabei, mein Gott!

ein Samariterherz,

dass ich zugleich den Nächsten liebe

und mich bei seinem Schmerz

auch über ihn betrübe,

damit ich nicht bei ihm vorübergeh

und ihn in seiner Not nicht lasse.

Gib dass ich Eigenliebe hasse,

so wirst du mir dereinst das Freudenleben

nach meinem Wunsch,

jedoch aus Gnaden geben.

5. Arie (Alt)

Ach, es bleibt in meiner Liebe

lauter Unvollkommenheit!

Hab ich oftmals gleich den Willen,

was Gott saget, zu erfüllen,

fehlt mir's doch an Möglichkeit.

6. Choral

Herr, durch den Glauben wohn in mir,

Lass ihn sich immer stärken,

Dass er sei fruchtbar für und für

Und reich in guten Werken;

Dass er sei tätig durch die Lieb,

Mit Freuden und Geduld sich üb,

Dem Nächsten fort zu dienen.

2. レチタティーヴォ (バス)

そうでなければなりません!

神は私たちの心が、ただ神のためにのみあることを望むのです!

人は魂を尽くして、主を

自分たちの喜びとして選び取るべきであり、

そして、神が私たちの思いを

その御霊によって燃え立たせる時以上に

歓ぶことがあってはならないのです。

私たちは神の恩寵と慈しみを

その時初めて、真に確信させられるのですから。

3. アリア (ソプラノ)

私の神よ、私はあなたを心から愛しており、

私の命のすべてはあなたに結びついているのです。

私にあなたの掟をしっかりと認識させ、

愛に燃え立たせてください、

あなたを永遠に愛することができるように。

4. レチタティーヴォ (テノール)

私の神よ!さらに私に

サマリア人のような心を与えてください。

私が隣人を愛するのと同時に、

その人の苦痛を思って

共に悲しみ、

そしてまた、私が隣人を見過ごしたり、

苦しみの中に捨て置くことがないように。

どうか、私が自己愛を憎むようにしてください、

そうすれば、いつの日かあなたは私に喜びの生を

私の願いにこたえて、

いやむしろ、あなたの恵みとして与えてくださるでしょう。

5. アリア (アルト)

ああ、私の愛はいまだに

不完全な所ばかりなのです!

私は幾度も決意し、

神の言われることを果たそうとするのですが、

私にはその力が足りないのです。

6. コラール

主よ、信仰によって私の内に住み、

信仰を絶えず強くならしめてください。

信仰がいつまでも実りをもたらし、

豊かに善い行いを為しますように。

信仰が愛によって働き、

喜びと忍耐をもって自らを鍛え、

この先も変わらず、隣人に尽くすために。

(David Denicke 作のコラール « O Gottes Sohn, Herr Jesu Christ »第 8 節)

カンタータ 第 140 番 「目覚めよ、と私たちを呼ぶ声」

Kantate "Wachet auf, ruft uns die Stimme", BWV 140

三位一体の祝日後第 27 日曜日のためのカンタータ

歌詞：作者不詳

バッハ生誕 333 年に当たる昨年、6月に開催された恒例のライブチヒ・バッハフェストでは、三日間で教会カンタータのベスト 33 曲を演奏するという前代未聞の企画(カンタータ・リング)が実現した。三日目の夜、E. ガーディナーの指揮で「リング」の締め括りとして、聖ニコライ教会で演奏されたのがこの 140 番である。このカンタータがしんがりを務めたのは、選ばれた 33 曲の中で最も有名なカンタータということもあると思うが、教会歴のサイクルで最後の日曜日のために作曲されたカンタータだからだろう。でも、それがとても当たった。現地で聴いていた私はスタンディング・オベーションに加わりながら、このカンタータがいかに聴衆に愛されているかをひしひしと感じた。

初演は 1731 年 11 月 25 日、三位一体節後第 27 日曜日であるが、この第 27 日曜日というのはなかなかお目にかかれぬ。三位一体節後の日曜日が最大となる 27 回あるのは、移動祝日である復活節が 3 月 26 日以前に訪れる場合に限られ、このようなケースはバッハがライブチヒでカントルを務めた期間 (1723 年～1750 年) の間に 1731 年と 1742 年の 2 回だけであった。三位一体節後第 27 日曜日用というだけで、自ずと初演された日が絞られるわけだ。ちなみにバッハが第 27 日曜日用に書いたのはこのカンタータだけである。

カンタータの歌詞は第 1、4、7 曲に Ph. ニコライの同名コラールの第 1～3 節が使われている。冒頭合唱でソプラノパートがコラール旋律を歌うコラール・カンタータとして作曲されているが、バッハが一連のコラール・カンタータを作曲していた 1724 年頃には三位一体節後第 27 日曜日はなかったため、コラール・カンタータのセットの穴を埋めるためだったと推測される。

当日の福音書章句はマタイ伝 25 章 1～13 節、花婿の到着を待つ 10 人の乙女のたとえで、神の国の到来への備えを説く。ちなみに、マタイ伝 25 章はこの後有名ないくつかのたとえ話を経て、26 章すなわち「マタイ受難曲」の始まりの部分となる。たとえ話では、10 人の乙女のうち 5 人は賢く、5 人は愚かで、愚かな乙女たちは灯火は持っていたが油の準備を怠り、真夜中に訪れた花婿と一緒に祝宴に入ることが出来なかった。

このカンタータは歌詞を読んでもらえば分かるが、書かれている内容が分かりやすく、親しみを持ちやすい。本日演奏する他のカンタータと違って説教じみたところがない。それは音楽についても言えて、冒頭合唱はとても親しみやすくワクワクするような曲である。前奏部では近付いてくる花婿の足どりと、それを待ちわびる乙女の高鳴る心が表現されている。描かれている情景が目には浮かぶみごとな音楽だ。ライブチヒ

着任後約 3 年で 3 年分の礼拝音楽を書き上げ、それから 5 年以上を経て作曲されたこのカンタータは、熟練期のバッハの最高傑作のひとつと言えよう。

合唱に続いてレチタティーヴォでも、テノールが「花婿が来ます。目を覚ましていなさい」と語りかける。「花婿が若い鹿のように、丘を飛び越えて来る」という表現が面白い。そして「あそこに、もう来ています」と言い切って、次の二重唱に繋ぐ。

第 3 曲はソプラノとバスの二重唱で、花婿の到着を心待ちにしている魂 (ソプラノ) と、花婿すなわちイエス (バス) との対話である。普通のヴァイオリンより短 3 度高く調弦されたヴィオリーノ・ピッコロの奏でる切ないメロディーは、魂の待ちこがれる思いをよく表している。

カンタータの真ん中に置かれた第 4 曲は、テノール斉唱によるコラール・コンチェルトである。ヴァイオリンとヴィオラによるユニゾンのオブリガート旋律と通奏低音の上に、テノール斉唱によるコラールのメロディーが重なり、流麗な音楽を形作っている。バッハは後に、これを編曲して有名なオルガン曲「シュプラー・コラール集」の第 1 曲 (BWV645) とした。この後に、バスのレチタティーヴォに続いて再びソプラノとバスの二重唱が来る。第 4 曲を真ん中に、冒頭、終曲に合唱曲を置き、その間にレチタティーヴォと二重唱のセットを置くという対称形になっているのだ。

第 5 曲のバスのレチタティーヴォでは、マタイ受難曲のイエスの語りと同様に、長く伸ばすような弦の伴奏が付いている。花婿であるイエスが花嫁を迎え入れるのだ。続いて始まる二重唱では、まずオーボエのオブリガート伴奏が聴く者を惹き付ける。この思わず口ずさみたくなるメロディーに乗って、花婿と花嫁は互いに「私の愛する方は私のもの」、「私はあなたのもの」と歌いだす。そして「この愛は、なにものにも引き離されることはありません」と歌うのである。礼拝用の音楽とは思えない、なんともロマンチックな二重唱ではないか!この二重唱でこのカンタータの幸せ一杯感は最高潮に達する。

最終曲のコラールもそれに劣らず喜びにあふれた音楽だ。まるで第 6 曲で歌われた幸せが世界にあまねく広がっていくような、そんな気持ちにさせられる。何せ、歌われるのは「これまで誰の目も見たことがなく、誰の耳も聞いたことがない喜び」なのだから。

くだんの「カンタータ・リング」の終演で、アンコールとしてガーディナーが指揮し、世界中から聖ニコライ教会に集まった聴衆が一体となってこのコラールを歌うのを聴いたとき、バッハの音楽の時代を越えた普遍性を強く感じた。

1. Chor

Wachet auf, ruft uns die Stimme
 Der Wächter sehr hoch auf der Zinne,
 Wach auf, du Stadt Jerusalem!
 Mitternacht heißt diese Stunde;
 Sie rufen uns mit hellem Munde:
 Wo seid ihr klugen Jungfrauen?
 Wohl auf, der Bräutigam kömmt,
 Steht auf, die Lampen nehmt!
 Alleluja!
 Macht euch bereit
 Zu der Hochzeit,
 Ihr müsset ihm entgegen gehn!

2. Rezitativ (Tenor)

Er kommt, er kommt,
 der Bräutigam kömmt!
 Ihr Töchter Zions, kommt heraus,
 sein Ausgang eilet aus der Höhe
 in euer Mutter Haus.
 Der Bräutigam kömmt, der einem Rehe
 und jungen Hirsche gleich
 auf denen Hügeln springt
 und euch das Mahl der Hochzeit bringt.
 Wacht auf, ermuntert euch!
 den Bräutigam zu empfangen!
 Dort, sehet, kömmt er hergegangen.

3. Arie (Duett : Sopran(Seele) und Bass(Jesu))

(Seele) Wenn kömmt du, mein Heil?
 (Jesu) Ich komme, dein Teil.
 (Seele) Ich warte mit brennendem Öle.
 Eröffne den Saal
 zum himmlischen Mahl,
 (Jesu) Ich öffne den Saal
 zum himmlischen Mahl,
 (Seele) komm, Jesu!
 (Jesu) Ich komme;
 komm, liebliche Seele!

1. 合唱

目覚めよ、と私たちを呼ぶ声がします、
 見張りの者たちが、はるか高い望楼の上から呼ぶ声が。
 目覚めよ、エルサレムの町よ!
 真夜中の、今この時に。
 彼らは高らかに呼びかけます。
 どこにいるのか、賢い乙女たちよ?
 さあ、花婿がやって来ます。
 起き上がり、灯火を手に取りなさい!
 アレルヤ!
 準備をなさい、
 婚礼のために。
 花婿を出迎えるのです!

(Philipp Nicolai 作のコラール
 « Wachet auf, ruft uns die Stimme »第 1 節)

2. レチタティーヴォ (テノール)

彼が来ます、彼が来ます。
 花婿がやって来るのです!
 シオンの娘たちよ、出てきなさい、
 彼はいと高き所から急ぎ来られ、
 あなたたちの母の家に入られます。
 花婿は来ます、ノロジカのように、
 若い鹿のように
 丘を飛び越え、
 あなたたちに婚礼の宴をもたらすのです。
 目覚めなさい、しっかり目を覚まさない!
 花婿を歡び迎えるために!
 あそこに、見なさい、その方が来ています。

3. アリア (ソプラノ (魂) とバス (イエス) の二重唱)

(魂) いつ来てくださるのですか、私の救い主よ?
 (イエス) 私は行く、あなたが受けるべきものとして。
 (魂) 私は油に火を灯して待っているのです。
 広間の扉を開けてください
 天の宴のために!
 (イエス) 私は広間の扉を開ける
 天の宴のために。
 (魂) 来てください、イエスよ!
 (イエス) 私は行く。
 来なさい、愛しい魂よ!

4. Choral (Tenor)

Zion hört die Wächter singen,
Das Herz tut ihr vor Freuden springen,
Sie wachet und steht eilend auf.
Ihr Freund kommt vom Himmel prächtig,
Von Gnaden stark, von Wahrheit mächtig,
Ihr Licht wird hell, ihr Stern geht auf.
Nun komm, du werthe Kron,
Herr Jesu, Gottes Sohn!
Hosianna!
Wir folgen all
Zum Freudensaal
Und halten mit das Abendmahl.

5. Rezitativ (Bass)

So geh herein zu mir,
du mir erwählte Braut!
Ich habe mich mit dir
in Ewigkeit vertraut.
Dich will ich auf mein Herz,
aus meinen Arm gleich wie ein Siegel setzen
und dein betrübtes Aug ergötzen.
Vergiss, o Seele, nun
die Angst, den Schmerz,
den du erdulden müssen;
auf meiner Linken sollst du ruhn,
und meine Rechte soll dich küssen.

6. Arie (Duett : Sopran(Seele) und Bass(Jesu))

(Seele) Mein Freund ist mein,
(Jesu) Und ich bin dein,
(Beide) die Liebe soll nichts scheiden.
(Seele) Ich will mit dir
(Jesu) Du sollst mit mir
(Beide) in Himmels Rosen weiden,
da Freude die Fülle, da Wonne wird sein.

7. Choral

Gloria sei dir gesungen
Mit Menschen- und englischen Zungen,
Mit Harfen und mit Zimbeln schon.
Von zwölf Perlen sind die Pforten,
An deiner Stadt sind wir Konsorten
Der Engel hoch um deinen Thron.
Kein Aug hat je gespürt,
Kein Ohr hat je gehört
Solche Freude.
Des sind wir froh,
Io, io!
Ewig in dulci júbilo.

4. コラール (テノール)

シオンは見張りたちが歌うのを聞いて
その心を喜びに躍らせ、
目を覚まし、起き上がって急ぎ行きます。
シオンの愛する方は、天から壮麗に降りて来られます、
恩寵によって力強く、真理によって偉大な姿で。
シオンの光は明るく輝き、シオンの星は空へと昇るのです。
今こそ来てください、貴い冠たる方よ、
主イエス、神の子よ！
ホサンナ！
私たちは皆、付き従って
喜びの広間へと参ります。
そして、晩餐を共にいたします。

(« Wachet auf, ruft uns die Stimme »第2節)

5. レチタティーヴォ (バス)

さあ、私のもとに入って来なさい、
私のために選ばれた花嫁よ！
私はあなたと
永遠に結ばれているのだ。
私はあなたを、私の心と
私の腕とに印のように刻み、
あなたの悲しげな目を喜ばせよう。
忘れるのだ、魂よ、いまこそ
不安や痛み、
あなたが耐え忍ばなければならないものを。
私の左手にあなたは憩い、
私の右手はあなたに口づけするだろう。

6. アリア (ソプラノ (魂) とバス (イエス) の二重唱)

(魂) 私の愛する方は私のもの、
(イエス) そして私はあなたのもの、
(両者) この愛は、なにものにも引き離されることはありません。
(魂) 私はあなたと共に
(イエス) あなたは私と共に
(両者) 天のバラの園で草を食むのです。
そこは喜びにあふれ、至福に満ちていることでしょう。

7. コラール

栄光があなたに歌われますように。
人々と天使の舌によって、
豎琴とシンバルの音と共に、美しく。
十二の真珠で門は飾られ
あなたの都において、私たちは
高貴な天使たちと共に玉座を取り囲む者となるのです。
これまで誰の目も見たことがなく、
誰の耳も聞いたことがないので、
このような喜びを。
そのことに、私たちは歓呼の声を上げます、
イオー、イオー！
永遠に、甘い喜びのうちに。

(« Wachet auf, ruft uns die Stimme »第3節)

■ Ensemble14 (アンサンブル・フィアツェン)

第 28 回演奏会メンバー

ソプラノ (Sopran)		アルト (Alt)		テノール (Tenor)	バス (Bass)
伊藤 泰子	佐藤 かおり	Jesse Astalos	片山 薫	遠藤 貴之	大内 良太郎
岩倉 ひろみ	菅野 総子	上田 暁子	寺崎 淳子	隈 健一	木下 剛
大軒 京子	中阪 理津子	大石 明子	中神 康一	笹部 雅人	小林 尚弘
河野 優子	原田 篤子	小田 奈穂子	橋元 正美	佐藤 容司	菅野 松佐登
川村 昌子	三上 香子	改田 晶子	頼 甲子	島津 欣矢	武井 康史
子井野 真貴子	室橋 明美	柿原 紀子		長澤 哲	武内 崇史
				中西 隆紀	次田 章
				室橋 義明	三浦 貴博

指揮者：辻 秀幸 練習ピアニスト：田城 章子

代表：室橋 明美 副代表：小林 尚弘、柿原 紀子、佐藤 容司

練習指揮者：木下 剛、小田 奈穂子、室橋 明美、長澤 哲

これまでの演奏 (抜粋) 作曲者：J. S. バッハ

- 1999年 4月 マタイ受難曲 抜粋演奏 (ピアノ伴奏) に、「マタイを歌う会」とともに出演 (日本基督教団奥沢教会)
- 1999年 9月 第1回演奏会 カンタータ 第106番、第150番、第155番 (ルーテル市ヶ谷センター)
- 2000年 4月 マタイ受難曲の全曲演奏に第2コーラスとして出演 (日本基督教団 田園調布教会)
- 2003年 5月 第7回演奏会 ヨハネ受難曲 BWV 245 (津田ホール)
- 2005年 9月 第10回演奏会 マタイ受難曲 BWV 244 (日本大学カザルスホール)
- 2010年 7月 第16回演奏会 ミサ曲口短調 BWV 232 (紀尾井ホール)
- 2016年 7月 第25回演奏会 カンタータ 第14番、第36番、第109番、第133番 (浜離宮朝日ホール)
- 2017年 7月 第26回演奏会 カンタータ 第23番、第40番、モテット5番、ミサ曲へ長調 (浜離宮朝日ホール)
- 2018年 3月 第27回演奏会 カンタータ 第39番、第101番、第182番 (浜離宮朝日ホール)

一覧 (BWV の数字に対応。赤字がこれまでの演奏曲)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120
121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140
141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160
161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180
181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200
201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220
221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240
241	242	243	244	245	246	247	248	249											

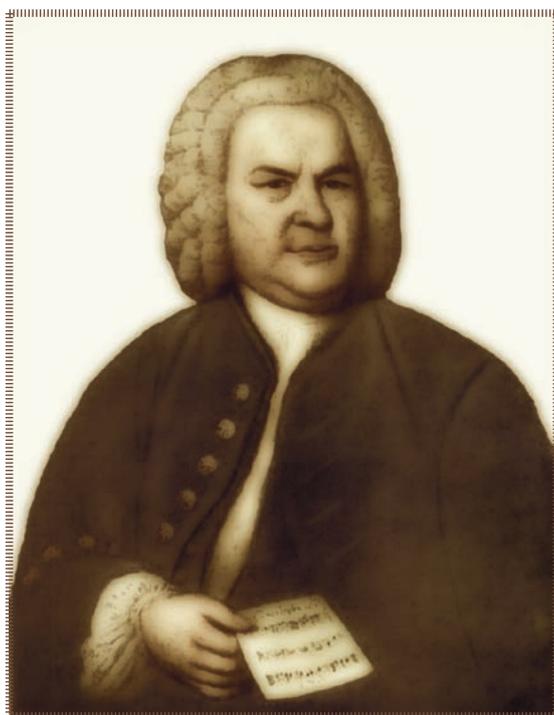
Ensemble14 第28回演奏会プログラム

発行日：2019年1月27日

発行者：Ensemble14

© 無断転載・複製を禁じます。

次回 第29回演奏会のご案内
2019年12月7日(土) 浜離宮朝日ホール
J. S. バッハ 作曲
カンタータ 第16番、第28番、第70番、第121番



Dirigieren

主催 Ensemble 14
後援 JCDA 日本合唱指揮者協会